

安楽寺だより 第5号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目 12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

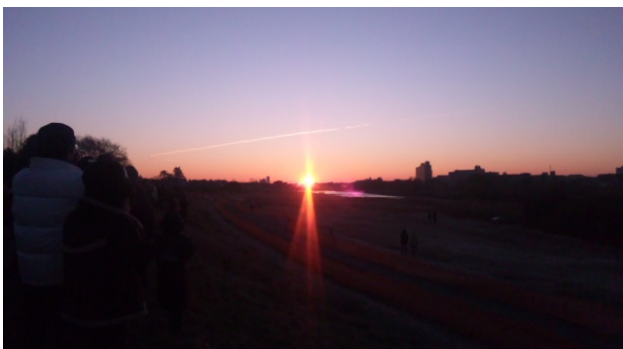
発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/anrakuji>

寒中お見舞い申し上げます

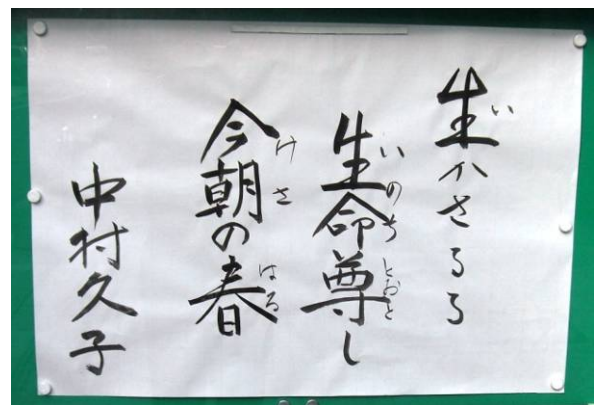
この冬の寒さは、とても厳しく感じられます。昨年の夏、うだるような暑さに閉口していたのがまるで嘘のようです。

みなさま、風邪などをひかず、お変わりなくお過ごしでしょうか？

元旦の朝は、冷たい空気が澄みわたり、「初日の出」を拝み見ることができました。空が徐々に明るくなり、地平線から小さな光が現れ、一年の節目を清々しい気持ちで迎えることができました。



元旦の日の出（多摩川河川敷にて）



正月三が日の掲示板には中村久子さんの句を掲げました。幼くして両手両足を失いながらも、晩年には「ある ある ある」という力強い詩を残しています。度重なる苦境の中でも、常に人としての誇りを失わなかった姿に心を打たれます。

「いのちは不思議。自分で生きているのではなく、生かされているのです」と言い切る中村久子さんの言葉は、ひたむきさの中に、たくましさを感じます。

《あれこれ抄》

▼「安楽寺だより」第5号をお届けします▽発行してから満1歳となりました。

▼正月はテレビでスポーツ観戦を楽しみました▽箱根駅伝では、母校が18年ぶりに総合優勝を果たし嬉しく思いました▽コースは寺の近くを通りますので沿道で応援をしながらお参りに来てくださる方もいらっしやいます。

▼「無縁社会」が大きな社会問題の1つとして取り上げられています▽年末年始に孤立してしまつた人向けに「年越しSOS電話相談」が急遽開設され、私もボランティアに応募しました。

▼前々坊主不在の正月は少し寂しく感じますが、おかげさまで前任職を始めて、寺の者はみな元気に正月を迎えることができました▽今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

宗祖 親鸞聖人のお姿

宗祖 親鸞聖人のお姿について、いくつかの像で見比べてみましょう。



鏡の御影

(かがみのごえい)
七十歳頃の肖像画。
聖人絵像で最も古く、
鏡に写したごとく聖人の容姿を伝えています。
西本願寺蔵、国宝。



安城の御影

(あんじょうのごえい)
八十三歳の御影。
太い眉、やや細い鋭い目で、何かを話しかけるような口元をしています。
安城市に伝来。
西本願寺蔵、国宝。



安楽寺お厨子の御影

安楽寺本堂のお厨子の中のお姿です。
他のお姿に比べると、穏やかな表情をされている気がします。



熊皮の御影

(くまがわのごえい)
聖人が安座している敷皮は白い剛毛を混えた熊皮であるのが名前の由来です。
奈良国立博物館蔵、重要文化財。



築地本願寺の聖人立像

築地本願寺の正門入口から見て左手前の角に親鸞聖人の立像があります。



箱根神社の聖人立像

親鸞聖人が京都に戻られるときに箱根権現に立ち寄られたことから戦後に銅像が建てられました。

平成23(2011)年の行事日程(安楽寺本堂にて)

彼岸会法要(春)	3月21日(月)午後1時~
永代経法要	5月10日(火)午後1時~
彼岸会法要(秋)	9月23日(金)午後1時~
報恩講	11月10日(木)午後1時~

お寺には
どうぞ
いつでも
お参りください

750回大遠忌について



宗祖親鸞聖人がお亡くなりになったのは鎌倉時代の1263年です。浄土真宗のみ教えをいただく私たちは、宗祖の50年毎の節目にあたる年忌法要を「大遠忌(だいおんき)」と称して、特に大切にお勤めしています。

平成 24(2012)年 1月 16日にいよいよ750回忌の「大遠忌」をお迎えいたします。このため西本願寺(京都)では全国各地のご門徒がお参りできるよう、この4月から翌年1月にかけて延べ56日間110座の法要が御影堂(ごえいどう)で勤修されます。

私たちもかねてからご案内の通り、芝組仲間と一緒に団体参拝を計画していて、5月によろやくお参りできることになりました。



750回大遠忌のスローガンとロゴが制定されています。

「世のなか安穩なれ」というお言葉は、不安と争いの絶えない社会において念仏者がめざすべき道として、親鸞聖人がお手紙の中で示されたものです。

その願いは、現代を生きる私にそのまま掛けられたものと言えるでしょう。私たち一人ひとりが自己中心のこころを反省し、同じいのちを生きる相手の存在に気づくことを求められているのだと思います。

団体参拝旅行 申込み受付中です!

締め切り
3月末!

「親鸞聖人 750回大遠忌法要」は50年に1度のまたとない尊いご縁です。この機会に合わせ西本願寺(京都)への団体参拝旅行を行います。ご都合のつく方は、ぜひ一緒にお参りをいたしましょう。

現在、申込み受付中です。すでに数名の方からのお申込みをいただきました。先着順で受け付け中ですので、希望する方はお早めにご連絡ください。



日程: 平成 23(2011)年 5月 13日(金)~14日(土) [または~15日(日)]

費用: お一人あたり 59,000円(予定)

旅程: 13日(金) 比叡山延暦寺(根本中堂、横川中堂)、日野誕生院、大谷本廟

14日(土) 西本願寺(阿弥陀堂、御影堂※、飛雲閣)

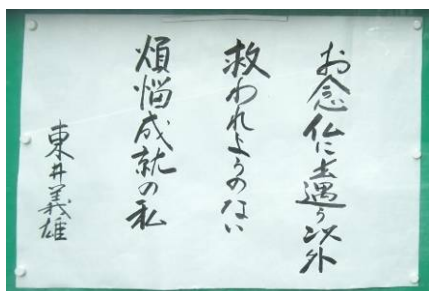
※「親鸞聖人 750回大遠忌法要」の参拝

15日(日) 葵祭 <追加宿泊オプション・希望者のみ>

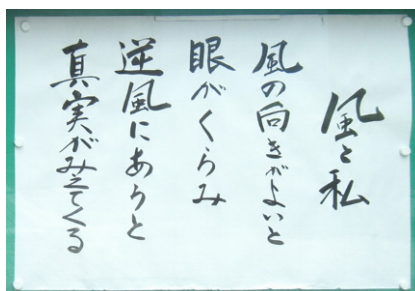
定員: 芝組全体で200名。安楽寺から住職を含め12名程度。(全体で調整します)

月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

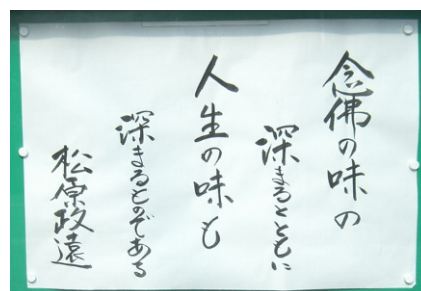
お寺の入り口に、その時々々の伝道の言葉を掲げています。(1か月毎)



2010年 11月



2010年 12月



2011年 1月

住職の自死対策活動

住職は自死（自殺）対策という“生きる支援”の活動に取り組んでいます。

「自死対策に取り組む僧侶の会」という団体の代表を務め、仲間は全国にも広がっています。

12月に「いのちの日 いのちの時間」と名付けた“自死者追悼法要”を行いました。

東京の法要には150名以上の自死遺族が参列し、厳粛な中、法要をお勤めしました。

引き続いて名古屋、大阪、広島でも地域の僧侶有志が立ち上がり、小規模ながらも同じ趣旨で法要を執り行いました。

活動の輪が徐々に広がってきています。

手紙による相談「自死の問い・お坊さんとの往復書簡」という活動も、始めてから丸3年が経ちました。この間、約600人の相談者から2,500通以上のお手紙を受け取りました。

ご縁をいただきこの2月に本を出版することになりました。1冊は共著でNHK出版から、もう1冊は幻冬舎からの発刊です。

次号で詳しくお伝えいたします。



東京:

12月1日
自死対策に取り組む僧侶の会
(護国寺にて)



名古屋:

12月3日
(東別院にて)



大阪:

12月9日
(四天王寺にて)



広島:

12月21日
(超覚寺にて)